

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号	06 04 06	中期総合計画主要施策番号	1-04	担当課	部・課	環境部自然保護課		
事業名	山岳環境保全総合整備事業			内線	2773			
				E-mail	shizenhogo@pref.nagano.jp			
事業の概要等	事業の目的	山小屋におけるし尿の自然浸透処理を解消し、山岳環境と下流域の水環境を保全する。						
	事業の必要性	【現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)】 平成20年度末において、トイレ未整備(自然浸透方式)の山小屋が57箇所存在する。 山小屋の数については、平成20年10月に、それまでの山小屋実態調査結果を踏まえて見直しを行い、181箇所から163箇所に変更した。 【原因分析(ギャップが発生している原因は何か)】 山小屋トイレについては、立地条件が非常に厳しく、設置・維持管理に平地より多額な経費を要する。 【課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)】 山小屋経営者に対して財政的支援をし、トイレの整備率を向上させる。						
		事業内容	山小屋トイレの処理方式をバイオ方式やへり搬出方式等に改修し、自然浸透の解消を図る事業への支援を行う。 大規模(1千万円以上):国庫補助事業(補助率1/2) 小規模(1千万円未満):県単独補助事業(補助率1/2)					
		実施期間	H11 ~	根拠法令等	自然公園法 山岳環境保全施設等整備事業補助金交付要綱 小規模山小屋トイレ整備事業補助金交付要綱			
	成果と達成状況	事業の目指す成果	達成度(期待どおり)の判定基準(H20)		達成状況		評価	
山小屋トイレの整備を行い、山岳環境と下流域の水環境を保全する。(平成24年度までに山小屋トイレの整備率を80%以上とする。)		山小屋トイレを整備し、平成24年度までの目標達成に向けて整備達成率を着実に上げる。		平成20年度末の整備率は65.0%にとどまったが、目標達成に向けて、序々ではあるが進んでいる。(1.8%増)		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下		
事業コスト	区 分	単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要		
	最終予算額 (A)	千円	42,791	73,051	37,500	国庫・県単	国庫・県単	
	決 算 額 (B)	千円	42,791	53,051		実施方法	補助	
	B(H21はA)のうち一般財源	千円	0	825	0	歳出節別内訳等	補助金:53,051	
	概 算 人件費	人	0.40	0.40	0.40	(単位:千円)		
	概算人件費 (C)	千円	2,856	2,860	2,860			
概算事業費 (B(H21はA)+C)	千円	45,647	55,911	40,360				
事業実績	内 容	単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績		
	山小屋トイレ整備数	箇所	3(内2箇所は再整備)	5(内2箇所は再整備)	3(内1箇所は再整備)			
	山小屋トイレ整備率	%	63	65	66			
	し尿処理改善済みの山小屋数(累計)	箇所	103	106	108			
事業の課題	区 分	判 定 ・ 説 明						
	事業のニーズの変化	増加	横ばい	減少	判定の説明	・山小屋163箇所中57箇所が未整備であり、山岳環境と下流域の水環境の保全の観点から、事業のニーズは高い。 ・受益対象が広域に及ぶため県の関与は必要。		
	県の関与を見直す余地	余地なし	当面余地なし	余地あり				
	有効性を高める余地	余地なし	当面余地なし	余地あり				
	効率性を高める余地	余地なし	当面余地なし	余地あり				
	課題の総括	・従来より続けている山小屋トイレの実態調査や実証試験などを行いながら、より信頼性があり、低コストの技術の導入を推進してゆく必要がある。 ・山小屋事業者がより積極的にし尿処理施設の改善を推進するため、昨年関係者に配布した「山岳トイレ導入促進事業報告書」の改訂や関係者によるし尿処理研究会への参加による低コスト技術情報の提供などの支援も行う必要がある。						